



©WFP/Jonathan Eng

国連 WFP の支援を受けながら育てたトウモロコシを見せてくれたルワンダの女性。

飢餓から救う。未来を救う。

国連の食料支援機関

国連WFPニュース

Aug. 2019 Vol.59

アフリカ、飢餓の連鎖から抜け出すために
食品ロスと飢餓～「食の不均衡」について考える～



「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)は、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたもの。国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、その実現を目指しています。

アフリカ、飢餓の連鎖から抜け出すために

今年8月28日から30日の3日間、「第7回アフリカ開発会議（TICAD7）」が横浜市で開催され、国連WFPも参加します。今号では、国連WFPの支援活動も多数行われているアフリカの飢餓の現状や、WFPの支援活動についてお伝えします。

アフリカの希望と課題

54カ国を有するアフリカは、豊かな天然資源を誇り、近年は海外投資や内需も拡大するなど、経済も大きく成長しています。しかし一方で、多くの課題も残っています。

現在、世界では8億人以上が飢餓状態にありますが、その3割以上がアフリカの人々です。慢性的な貧困に加え、紛争や自然災害が原因で、アフリカでは約5人に1人が栄養不足です。また5歳未満児の3割が発育阻害（年齢不相応の身長）に陥っています。

WFP支援国、半数がアフリカ

国連WFPが2018年に支援を実施した83カ国のうち約半数はアフリカで、また活動資金72億米ドルのうち約半分はサハラ砂漠以南のアフリカでの支援に充当されました。国連WFPのアフリカでの活動は、緊急支援や栄養支援、学校給食支援など多岐に渡りますが、ここではアフリカの最貧困国の一つであるマラウイにおける自立支援の事例をご紹介します。

飢餓の連鎖を断ち切るため

マラウイでは、多くの人が農業で生計を立てており、うち90％は雨水に頼っています。近年、干ばつや洪水が発生する頻度や規模が増しており、また発生予測もつきづらくなっているため、殆どの被災者は元の生活に戻る前に新たな災害の被害を受けるといった悪循環に陥っています。国連WFPは、気候変動による被害を減らし、人々が飢餓の連鎖から抜け出すための支援を実施しています。

「2015〜2016年は干ばつで大変な年でした。幸い、国連WFPから食料支援を受けながら、自立のための支援に参加できました。ここで私は堆肥の作り方を学び、裏庭で育てるための野菜の種も貰いました。育てた野菜は毎週、市場に売りに行っています。」小規模農家ジオニさんは語ります。

同支援では他にも、土壌流出を防ぎ雨水を貯めるための灌漑設備や利水設備の設置や改良方法など、

食品ロスと飢餓 「食の不均衡」について考える

世界には全人口を賄うだけの十分な食料があるにもかかわらず、9人に1人は飢えに苦しんでいます。一方で、世界の食料生産量の3分の1は捨てられており、先進国では食品ロスが社会課題となっています。

「食の不均衡」を解消するために、私たちにできることを考えてみましょう。

日本の「食品ロス」

「食品ロス」とは、食べ残しや賞味期限切れなど、まだ食べられるのに捨てられている食品のことです。皆さんは日本の年間の食品ロスはどのくらいの量かご存知でしょうか？日本では2016年に発生した食品ロスは643万トンだと推計されています。この量は、2018年に国連WFPが世界中で飢餓に苦しむ人々に行った食料支援量である390万トンの「約1.6倍」に相当します。

生産された食料の廃棄を防ぐために

日本のような先進国では食品ロスが問題となっている一方で、途上国では食料が生産の段階や収穫の後に廃棄される「ポストハーベスト・ロス」が問題になっています。これは、農家の保存設備が不十分であったり、収穫物を市場に届けるための輸送手段がないことなどが主な原因で起きています。

国連WFPはこういったポストハーベスト・ロスを削減し、多くの人が飢餓に苦しむ国々で食料が活用

されるために様々な取り組みを行っています。例えば、農村で収穫物を適切に貯蔵するための設備の整備や、農家が収穫物を市場まで届けやすいように道路を整備しています。国連WFPが生徒たちの学校給食を支援しているウガンダの学校では、給食に使う食料を長期間保管するための貯蔵庫を整備するなど、食料の廃棄を防ぐ努力をしています。

身近なことから始めよう

8月1日〜10月31日の3カ月間、国連WFP協会は世界食料デーキャンペーン2019として「ゼロハンガーチャレンジ」forアフリカを実施しています。

野菜の切れ端や皮など、ご家庭で捨ててしまいがちな食材を使った料理の写真を「#ゼロハンガーチャレンジ」「#WFP」をつけてInstagram、Twitter、フェイスブックに投稿すると、1投稿につき120円が、寄付協力企業から国連WFPの 아프리카 における学校給食支援に寄付されます。TICAD7の開催地である横浜市と共催し、SDG2「飢餓をゼロに」の達成に向けて私たちが日常生活の中で取組めるものとして展開していきます。ぜひ皆さんの料理の写真をSNSに投稿してご参加ください！



「野菜で子どもたちに健康的な食事を与えられる」とジオニさん

災害に備え、環境を保護しながら収穫を維持・増加するための様々な技術を学べます。支援に参加すると、食料や食料購入のための現金を受け取ることができます。現在マラウイでは、17万世帯がこのような自立支援に参加しています。

日本とアフリカ 国連WFPを通じて

2018年、日本政府からは5228万米ドル、国連WFP協会からは1億2千万円以上がアフリカの国連WFPの活動のために送られました。アフリカ各国の国連WFPで働く日本人も2019年4月30日現在で24人います。

成長が見られつつも尚、困難を抱えるアフリカへのご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

世界食料デーキャンペーン2019

Zero Hunger Challenge

for **AFRICA** 開催中!

食品ロス × 飢餓ゼロ

<https://www.jawfp.org/worldfoodday2019/>

レシピの写真をSNSで投稿

ハッシュタグ「#ゼロハンガーチャレンジ」と「#wfp」の両方をつけて

Instagram Twitter フェイスブック

学校給食4日分に!

寄付協力企業

120円の寄付に

支援の現場から

ウガンダ



他国の難民も支えるウガンダの発展をサポート

私が働いているウガンダ北部には南スーダンとコンゴ民主共和国から難民が流入しており、その80%は女性と子どもです。多くが貧困状態にあり食料支援に頼っています。また、受け入れ国のウガンダ北部にも貧しい人が多くいます。難民、ウガンダ現地住民ともに子どもの低体重や妊産婦の栄養問題が大きな課題となっています。

ウガンダ北部では約80万の難民に対して食料あるいは食料購入のための現金の支援を行っています。また難民居住地域では、現地住民と難民の共存を後押しするプロジェクトも実施しています。さらに、日本の支援を受けて、南スーダン難民と現地住民のための小学校を拠点に学校農園、給食調理用のかまど建設のために難民と地域住民に労働に参加してもらい、対価を提供するという支援

も行っています。このように支援を受ける人々の参加を通して地域の資産を形成するプロジェクトは、2016年から続く緊急支援の中で初めての難民生計支援プロジェクトとなっています。

私は2018年4月からアルーア地域事務所プログラム部署の責任者として、また今年の5月からは生活生計支援担当官として、難民支援の実施企画サポートを行っています。仕事は事務から複数の関係者との調整業務や会議まで様々あり、学びの多い日々です。

現在国連WFPウガンダでは「Story Tellers」というプロジェクトで、難民など受益者たちが自分の経験を語り表現するためのトレーニングを行ったり、そのような機会の提供をしています。昨年のトレーニングの卒業式では、参加者の難民の若者が自分を表現する喜びや、ホストコミュニティの人々が音楽、写真、伝統舞踊を楽しむ様子を見て、とても感動しました。この体験を通じて人間の尊厳を尊重する支援の必要性を強く感じました。



由佐 泰子 ゆさ・たいこ
国連WFP ウガンダ事務所 プログラムオフィサー
仙台市出身。青山学院大学経済学部卒、カリフォルニア大学ロサンゼルス校教育大学院修士号取得。教師、青年海外協力隊、WFPペルー・マラウイ事務所、国連児童基金スーダン事務所勤務。

日本からのご支援は、紛争のために祖国を追われた人、基本的ニーズが満たされていない人への支援とともに、これらの問題を解決しようとしているウガンダ政府の能力強化のためにも使われています。ウガンダは自国も貧困問題を抱えつつも、流入してくる難民に対し支援を行っており、地域の安定に大切な役割を果たしています。日本からのご支援は東アフリカの安定にも貢献しているのです。これからもウガンダ、そしてアフリカの発展と安定のため、ご支援をよろしくお願いいたします。

身近にできる国連WFP支援

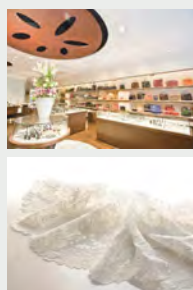
レッドカップ for AFRICA



TICAD7開催の8月中、売り上げの一部がアフリカにおける学校給食支援への寄付となる商品と協力企業が販売しています！

(株)アールケイエンタープライズ
ロデオドライブ横浜市内 4 店舗でのお客様の購入・買取のご利用回数に応じたご寄付

(株)近澤レース店
近沢レース店(元町本店、オンラインショッピング限定)の全商品



(株)ありあけ
横濱ハーバーダブルマロンなどありあけ商品全般



(株)トレス
アフリカ支援プロジェクトチャリティーウェア



(株)崎陽軒
シウマイ弁当
※8月28～30日の3日間。

インフォメーション

WFPチャリティーエッセイコンテスト

応募1作品ごとに120円(学校給食4日分)が協力企業より寄付される本コンテスト。今年のテーマは「私のとおきごはん」。応募〆切は9月6日(金)。是非ご応募ください！

<https://www.wfpessay.jp/2019/>

最新の情報は…



WFP.JP



WFP_JP



スマホアプリ
FOODDeliver
(フードデリバリー)



メルマガ
HPトップページ
からも登録可



国連WFP
www.wfp.org/jp

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 6F

0120-496-819

受付時間 9:00～18:00 (通話料無料・年中無休)